

富山県富山市方言

小西 いずみ

項目		基本情報
話者 情報	生年	1945年
	生育地	富山県富山市
	性別	男
	補足情報	
解説	概要	富山県内は県全体の言語的均質性が比較的高いが、分けるとすれば大きく県東部「呉東」、県西部の北～中部「呉西」、県西部の南部「五箇山」に分けられる。「呉東」はさらに「東部」「西部」に分けられる。富山市はそのうち呉東の東部に分類される。(参考: 下野雅明「富山県の方言」『講座方言学6』国書刊行会; 小西いずみ『富山県方言の文法』ひつじ書房)
	表記	<ul style="list-style-type: none"> ・ガ行鼻音は「カ°」「キ°」…などと記す。 ・無声子音間で狭母音が無声化することが多い。表記には反映しない。 ・その他、音声的に特徴のある場合や注意を要する場合は「備考・コメント」欄に記す。
	文法概説	<ul style="list-style-type: none"> ・主格は無助詞、助詞カ°、非成節的な助詞アで表される(項目8, 9, 44など)。カ°は焦点がある場合に用いられやすい。 ・対格は無助詞となるのがふつう(項目1など)。焦点があればオも使われることがあるが、本データには含まれていない。 ・主題は無助詞、非成節的な助詞アになることが多く、助詞チャが使われることもある(項目11, 12, 13など) ・準体助詞としてカ°が使われる(項目40など) ・動詞の活用型として、カク kak-u (書く) など子音語幹型、ミル mi-ru (見る) など母音語幹型があり、不規則活用動詞はクル ku-ru (来る)、スル su-ru (為る) である。 ・動詞の否定(非過去)形はミン mi-n (見ない) など -n形である(項目11)。否定過去形として -ナンド、-ンダ、-ンカッタがある(項目13)。 ・名詞述語を作るコピュラ動詞としてダとヤがある(項目35)。 ・形容詞の副詞化接辞として タカナト taka-nato (高く) など-ナトがある(項目30)。 ・人など有生物主語の存在動詞はオルが使われ(項目2)、継続のアスペクト接辞としてヨンドル jondor-u (読んでいる) など「-テ オル」の縮約形 -トル -tor-uが使われる。-トルは進行と結果の両方を表す(項目24, 25など)。富山市方言には西日本に広くみられる -ヨルの形はない。

〔基本例文50〕 富山県富山市方言訳

方言訳1 (もっともよく使う表現)	方言訳2 (使うこともある表現)	備考・コメント
1 イマカラ トモダチニ テカ° ミ カク チャ		訳「今から友達に手紙を書くよ。」
2 フデデ テカ° ミ カク ヒトモ オッ チャ		訳「筆で手紙を書く人もいるよ。」
3 イエニ カエッテ スク° テカ° ミ カ イタチャ		訳「家に帰って、すぐに手紙を書いたよ。」
4 カイタ テカ° ミ ナンカイモ ヨミカエ スチャ		訳「書いた手紙を何回も読み返すよ。」
5 ヨル ジュージニ ナツタラ サツサト ネレヤ	ヨル ジュージニ ナツタラ サツサト ネラレヤ	訳「夜は10時になったら、さっさと寝ろよ。」「夜は10時になったら、さっさと寝なさいよ。」
6 アブナイカラ シャドー アルクナマ	アブナイカラ シャドー アルカ レンナ	訳「危ないから、車道を歩くなよ。」 「危ないから、車道を歩くな(逐、歩 きなざるな)。」
7 コノ ホン タローニ ヤロカ	コノ ホン タローニ ヤロカ ノー	訳「この本は太郎にやろうか。」「こ この本は太郎にやろうかな」；1は誰か に伝える発話、2は独り言
8 ヒルカラ アメ フロカノー	ヒルカラ アメ フロワイノー	訳「昼から雨が降るだろうか。」「昼 から雨が降るだろうな。」
9 ハルニ ナリヤ ハナ サクチャー		訳「春になれば、花が咲くよ。」
10 ハナコ マド アケタラー ムシ ハイッ テ キタワ		訳「花子が窓を開けたら、虫が入って きたよ。」
11 アサ アンマリ テレビ ミンワ	アサ アンマリ テレビチャ ミ ンチャ	訳「朝はあまりテレビを見ないよ。」 「朝はあまりテレビは見ないよ。」
12 ハナコ ソンナ バング° ミチャ ミン チャ		訳「花子はそんな番組は見ない よ。」；「見はしない」など「動詞- 助詞 する否定形」にあたる形がない
13 ハナコア キノー テレビ ミンダチャ	ハナコ キノー テレビ ミナン ダチャ	訳「花子は昨日テレビを見なかった よ。」「花子は昨日テレビを見なかつ たよ。」；ハナコア [hanakoa]
14 ハナコア テレビ ミンデ ホンバツカリ ヨンドラー		訳「花子はテレビを見ないで、本ばか り読んでいるよ。」；ハナコア [hanakoa]
15 キノー テレビ ミンカッタラ コノ シ コ° ト オワットッタロカ° イー		訳「昨日テレビを見なければ、この仕 事は終わっていただろうよ。」；「今 日中に」相当形式は欠
16 ネット ダイタ コドモニ クスリ ノマシ タチャ	ネット ダイタ コドモニ クスリ ノマシタゾ	訳「熱を出した子どもに薬を飲ませた よ。」「熱を出した子どもに薬を飲ま せたぞ。」
17 カーチャン イモートニ ツカイ イタシ タチャ	カーチャン イモート ツカイ イタシタチャ	訳「母さんが妹に使いに行かせた よ。」「母さんが妹を使いに行かせた よ。」
18 オトートト ケンカシテー オラダケ トーチャンニ シカラレタチャ		訳「弟とけんかして、私だけ父さんに 叱られたよ。」
19 ウチニ ダレモ オラン アイダニ ドロ ポーニ ハイラレタチャ		訳「家に誰もいない間に泥棒に入られ たよ。」

20	コノ コ マダ チツチャイケドー ムツカシー カンジ カケルチャ	コノ コ マダ チツチャイケドー ムツカシー カンジモ カカレツチャ	訳「この子はまだ小さいけれども、難しい漢字が書けるよ。」「この子はまだ小さいけれども、難しい漢字も書けるよ。」；カケルは使わない（否定形カケエンは使う。項目22参照）
21	キヨー ジカン アツカラー ムツクリ テカ° ミ カケツチャ	キヨー ジカン アツカラ ムツクリ テカ° ミ カカレツチャ	訳「今日は時間があるから、ゆっくり手紙が書けるよ。」「今日は時間があるから、ゆっくり手紙が書けるよ。」；カケツチャのほうが言いやすい
22	コノ コ マダ チツチャイカ° デ ヒラカ° ナシカ カケンチャ	コノ コ マダ チツチャイカ° デ ヒラカ° ナシカ カケエンチャ	訳「この子はまだ小さいので、平仮名しか書けないよ。」「この子はまだ小さいので、平仮名しか書けないよ。」；カケエンは主体の能力が可能な条件になる場合の否定形
23	ツクエ ナイカラ チャント ジー カケンチャ	ツクエ ナイカラ チャント ジー カカレンチャ	訳「机がないから、ちゃんと字が書けないよ。」「机がないから、ちゃんと字が書けないよ。」；話者によると「他人のことをいう場合はカケエンと言える」とのこと
24	タロー イマ トナリノ ヘヤデ ホンヨンドラー		訳「太郎は今、隣の部屋で本を読んでいるよ。」；ヨンドラーはヨンドルワの動詞末尾ルと終助詞ワの融合形
25	タロー ハナコニ カリタ ホン モーサイコ° マデ ヨンドツチャ	タロー ハナコニ カリタ ホン モー ヨンデ シモトツラー	訳「太郎は花子に借りた本をもう最後まで読んでいるよ。」「太郎は花子に借りた本をもう読んでしまっているよ。」；タロー [taɾoə:]；シモトツラーはシモトルワの動詞末尾ルと終助詞ワの融合形
26	モット シズカナ トコロデ ネタイノー	モット シズカナ トコデ ネタイワ	訳「もっと静かなところで寝たいなあ。」「もっと静かなところで寝たいよ。」
27	ユーヤケデ ソラ アカイノー		訳「夕焼けで空が赤いなあ。」
28	コドモノ コロ ヒトリデ トイレ イクカ° オソロシカッタチャ	コドモノ コロ ヒトリデ トイレ イクカ° オットロシカッタチャ	訳「子どもの頃は一人でトイレに行くのがこわかったよ。」「子どもの頃は一人でトイレに行くのがこわかったよ。」；「とても」相当形式は欠
29	ウドンヤ ソバナラ ヤスカロカ° イ		訳「うどんやそばなら安いだろうよ。」
30	フルホンヤニ ホン タカナト コーテモロタチャ		訳「古本屋に本を高く買ってもらったよ。」
31	デンキヤ ワルテ ダレモ コンナ		訳「天気が悪くて、誰も来ないよ。」；コンナはコンワの末尾ンと終助詞ワの連声形
32	モー チョット ヤスカリヤ カエタカ° ニ	モー チョット ヤスケリヤー コータカ° ニ	訳「もっと安ければ、買ったのに。」「もっと安ければ、買ったのに。」；話者によるとカエタカよりもコータが言いやすいとのこと
33	ヒトリデ アソビ イッテモ タノシ ナイチャ		訳「一人で遊びに行っても、楽しくないよ。」

34	デンキサエ ヨー ナリヤ デカケラレツ チャ		訳「天気さえよくなれば、出かけられるよ。」
35	タローア マダ チューカ° クセーダチャ	タローア マダ チューカ° ク セーヤ	訳「太郎はまだ中学生だよ。」「太郎は まだ中学生だ。」; タローア [taro· a]
36	コドモノ トツキヤ センエンデモ タイ キンダツタチャ		訳「子どものときは1000円でも大金 だったよ。」
37	コリヤ ドロボーノ アシアト ヤロカ° イ	カー ドロボーノ アシアトヤロ カ° イ	訳「これはどろぼうの足跡だろう よ。」「これはどろぼうの足跡だろう よ。」
38	ソリヤー オラノ カサデーー アリヤー センセーノ カサダチャ		訳「それは私の傘で、あれは先生の傘 だよ。」
39	モシ アシタ イー デンキナラ コドン ダチ ツレテ ドッカ イカンマイカ		訳「もし明日いい天気なら、子どもた ちを連れて、どこかへ行こうじゃない か。」
40	コノ カサト クツアー オラノカ° デ チャ ナイワ		訳「この傘と靴は私ではないよ。」
41	A: アシタモ ココニ クッカエー B: ウン コヨー オモトツチャ		訳A「明日もここに来るかい？」 B 「うん、来ようと思っているよ」
42	A: ドーシテ コンカ° ヨ クル ユー トツタロカ° イ B: ゴメン チョット カラダ チョーシ ワルカッタカ° ヨ	A: ドーシテ コンカッタンヨ ク ル ユートツタカ° デ ナイカ° カヨ	訳A「どうして来ないんだよ。来ると 言っていただろうが。」「どうして来 なかったんだよ。来ると言っていたの じゃないのかよ。」 B「ごめん。 ちょっと体が調子が悪かったんだ よ。」; カラダ [karada]
43	A: アコニ オンカ° タロカノー B: ナーン タロージャ ナーテ ジロー ジャ ナイカ° カエ	B: ナーン タロージャー ナー テー ジロージャ ナイカ° カヨ	訳A「あそこにいるのは太郎かな？」 B「いや、太郎じゃなくて、次郎じゃ ないのか。」「いや、太郎じゃなくて、 次郎じゃないのかよ。」
44	A: ドレ アンタノ カサヨー B: コイツカ° オラノ カサヨー	A: ドイツツア アンタノ カサ ヨー B: コイツカ° オラノ カサダ チャ	訳A「どれがあなたの傘(逐、傘 よ)？」「どれがあなたの傘(逐、傘 よ)？」 B「これが私の傘だよ(逐、 傘よ)」「これがわたしの傘だ よ。」; A2 (アンタノの前にアとい う言い淀みあり)
45	A: コノ ホン ヨムカ° ナラ カシテ ヤツチャー B: ソノ ホンナラ モー ヨンデ シモ タ		訳A「この本、読むのなら貸してやる よ。」 B「その本ならもう読んでし まった。」
46	A: トナリノ イエニ ドロボー ハイッ タカ° ヤト B: ヘー ソンナカ° ー トナリニ ハ イッタカ° ナラー ウチモ キー ツケン ニヤ	A: トナリノ イエニ ドロボー ハイッタカ° ダッテノー B: ハー ソンナカ° ー トナリ ニ ハイッタカ° ナラ オラン トコモ キー ツケンニヤ ナラ ンノー	訳A「隣の家にどろぼうが入ったん だって。」「隣の家にどろぼうが入っ たんだってね。」 B「へえ、そうなの ？ 隣に入ったのなら、うちも気をつ けなければ。」「はあ、そうなの？ 隣に入ったのなら、私のところも気をつ けなければならぬね。」
47	A: アメ フリソーダカラ マド シメト イテ クレー B: モー シメテ アツチャー		訳A「雨が降りそうだから窓を開めて おいてくれ。」 B「もう開けてある よ。」

48	<p>A: ソバ タベニ イコカ B: ソバヨリ ウドンノ ホーカ° イッ チャー</p>	<p>B: ソバヨリ ウドンノ ホーカ° イーノー</p>	<p>訳A「そばを食べに行こうよ。」 B 「そばよりうどんのほうがいいよ。」 「そばよりうどんのほうがいい な。」 ; イコカの部分をイカンマイカ に換えても可</p>
49	<p>A: イロハショテント ユー ホンヤサン ドコニ アッカ シランケー B: シットルヨ ムコーニ カンパン ミ エロカ° イ</p>	<p>A: イロハショテント ユー ホン ヤ ドコニ アッカ シランケー</p>	<p>訳A「イロハ書店という本屋さんがど こにあるか知らないか?」「イロハ書 店という本屋がどこにあるか知らない か?」 B「知っているよ。むこうに看 板が見えるだろう? (逐、見えるだろ うが) 」</p>
50	<p>A: マルタカヤノ ラーメン タベタ コ ト アンカ° カエ B: ウン アコ ホントニ ウマイチャ ノー</p>		<p>訳A「まるたかやのラーメン、食べた ことがある (逐、食べたことがあるの かい) ?」 B「うん、あそこは本当に うまいよね。」</p>